

名前と「わたし」

——経験としての人名——

川 浦 康 至

2016年8月2日

前日はオープンキャンパス二日目だった。受験生の個別相談で、相談票の氏名欄を見ると、漢字一字の「カッコいい」名前だ。そのことを目の前の高校生に伝え、「そうですね。僕もそう思います」と返って来た。読み方も教えてくれた。字自体はよく見かけるものの、何通りにも読める字だった。私の迷いを察してくれたのかもしれない。

「実は名前の研究をしているんだけど……」と接ぎ穂すると、今度は「へえ、おもしろそうですね。僕もしたいなあ」と返してくれた。このまま話を続けたくなくなったが、ぐっと堪えて、本題に入った。

そんな記憶とともに雑誌を読んでいた。岩波書店の『図書』8月号だ。最初のほうに、三瓶恵子さんの「ピッピの国の児童文学に広がる『暴力』」という文章があった。彼女は『人を見捨てない国、スウェーデン』の著者である。スウェーデン在住歴は30年を越す、という。

「ここ数年、スウェーデンの児童文学にははじめや自殺未遂など暗いテーマを取り扱うものが多く、その傾向が年々ますます強まっている」。たとえば、として、書名に名前の含まれ

た作品を紹介する。

『お兄ちゃんの名はノア』(Min brorsa heter Noa)。6-9歳向けの本で、著者はアンナ＝クララ・ティードホルム。

三瓶さんによれば、「スウェーデンでは、地域にもよるがネオナチ・グループが台頭している。このことを、子どもの視点から観察し、どう対処して行くかを描いた作品」が本書である。主人公はノアの妹、サーガだ。

ノアはヒットラーを礼賛するネオナチ・グループに入り、悪い仲間と付き合い始める。純朴な本名(引用者注:ノアはヘブライ語起源で、Nóah(休息)に由来する男性名)を嫌い、自分をヴィーキング(引用者注:バイキングのこと)と呼ぶようになる。黒い服を好み、学校をさぼり、街中にハーケンクロイツを落書きする。ある日、彼はデモの乱闘騒ぎで人々を棍棒で殴り倒してしまう。警察につかまり、更生施設に入れられる。兄の豹変ぶりを不思議に思ったサーガは、親友といっしょにナチスについて調べたり、落書き消しに回ったりする。その後、収容中の兄を訪ね、「おにいちゃん、今はノアという名前なのね?」と聞くと、兄は「そうだよ、僕はノアだよ」と答え、そこで物語は終わる。

三瓶さんの次の次、石坂(いしざか)和子さんのエッセイ、「あの頃:『寺山修司からの手

名前と「わたし」

紙』を読んで」にも名前の話が出て来た。

石坂さんの肩書きを確認すると、「山田太一の妻」とある。胸騒ぎを掻き立てる書き方である。肩書きにこう掲げるのには相応の理由があるに違いない。読み始めるとすぐに、その事由が判明した。

「ある日、夫は『寺山との書簡集がでるよ』と私に言った。それだけだった。私は山田、寺山の二人が文学を語り合ったものかと思っていた。ところが、刊行された本を読むと、文学論もあるが、恋を語った手紙も多い」。寺山修司の「手紙」に、彼女が「かずこ」や「石坂」「あの子」で登場する。

寺山に関する記述が終わり、夫の話題に入ったところで、こんな件が出てくる。

「山田は私に、彼の妹の名前で手紙を寄越した。女の名前でなければ手紙は私に届かない。(昭和)三〇年の秋だった」。

彼女には「母親的な女性」が3人いて、女学校から早稲田大学に進んだ彼女は「過剰に心配」されていた。

続くときは続くものだ。次の次の次、川崎賢子(けんこ)さん(日本映画大学)の連載「もう一人の彼女」にも名前のことがでてきた。今号は連載の第3回で、タイトルは「チャイナドレスのアメリカ」、さらにサブタイトルに「李香蘭／山口淑子／シャーリー・ヤマグチ」とある。名前への言及を予感させる。

本人の文章が引用されている。

「かつて私は、李香蘭(引用者注:芸名)の名前を葬ろうと固く決意したものだが、あれから四十余年、折りにふれ時にふれ、彼女は私にまわりついてきた。もちろん、私のほうにも彼女と離れがたいところがあったからだ」(『李香

蘭 私の半生』1978年)。

彼女は「日本は祖国、中国は母国」と語ったと伝えられている。

『図書』はこの3つで終わった。ついで、同じく8月号の『波』を読みにかかった。すると、ここでも名前にふれている文章が見つかった。座談会の記録と、小説の会話場面である。

座談会は、長谷川康夫が『つかこうへい正伝 1968-1982』(2015年)で2016年5月、第35回新田次郎文学賞を受賞しての記念企画である。その席上で、つかのペンネームにまつわるエピソードが、樋口毅宏(たけひろ)と著者との間で交わされる(出席者の三人目は水道橋博士)。

樋口 びっくりしたのは、僕もずっと信じていたペンネームの由来、つかこうへいが「いつか公平」のアナグラムであることを長谷川さんが『つか正伝』で完全否定していたこと(略)。

長谷川 「つかこうへい」を名乗り始めた頃の関係者に訊ねても、「いつか公平」説なんてまるで出てこなかった。つかさん本人からも、そんな話は一度だってきたことはないしね。おそらくつかさんはあるとき耳にして、そのこじつけに失笑したんじゃないかな。現在あまりにもこの説が独り歩きして、みんな事実であるかのように錯覚しているけど、たぶんつかさん自身はただ面白がって、勝手にそれを言わせてみたいなどころがある。

『つかこうへい正伝』によれば、「つか」はたまたま見かけた表札にあった名前を拝借したというのが真相らしい(「こうへい」は奥浩平からとったと、『飛龍伝』(1997年)のあとがきでふれ

られている。ひらがなにした由来は『娘に語る祖国』(1990年)に書かれている)。しかし、つかさん自身が「いつか公平」説を気に入ったのか、容認していたという。

『波』の二つめは「最初の悪い男」という翻訳小説である。自宅に転がり込んで来た、上司の娘、傍若無人にふるまうクレーを追い遣ろうとして、主人公シェリル(43歳)は彼女にさりげなくメモを渡す。そこには「金曜日に客が来るので、家を出て行ってほしい」と書かれていた。

それを見て、クレーがシェリルに質す。「客って誰よ?」。

シェリル「ああ、古い友だちよ」

クレー「古い友だち?」

シェリル「ええ」

クレー「なんて名前の人」

シェリル「クベルコ・ボンディっていうの」

クレー「いかにも作ったって感じの名前ね」

シェリル「そ、彼にそう言っとくわ」

(ミランダ・ジュライ(岸本佐知子訳)「最初の悪い男」第5回から)

さて、これらの文章は、いずれも名前の諸相にうまい具合にふれている。「ノア」と「ヴィーキング」,「李香蘭」ではアイデンティティとしての名前もしくは「わたし」の構成要素(出自識別子とも言える)として名前が働いている。山田からの手紙の差出人に書かれた「妹の名前」は、名前が性識別子となっていると同時に、なりすまし的手段としても働いている。

「つかこうへい」の話は、ペンネームではあるものの、いったん付いた名前の再定義可能性

を示している。「クベルコ・ボンディ」をめぐる会話からは、名前らしさの要件がうかがえる。

名前研究の材料はかくも身近にあることを知らされた一日だった。

2011年3月11日

金曜日14時46分。当年度最後の学部教授会が終わり、林先生の送別会を待つ間の出来事だった。初めて経験する大きな揺れに研究室を飛び出した。すわ関東大震災か、と同僚たちと話していると、建物から出るようにとの放送が流れた。その後、揺れが収まると、今度は食堂に移動した。

同僚がラジオを持ってきた。震源は東京ではなかった。東北地方太平洋沖だという。マグニチュードは7.9と聞き(阪神淡路大震災で7.3)、二度びっくりさせられた(マグニチュードはその後、9.0に修正された)。

東北地方の大変な状況を知ったのはいつごろだったろうか。地震の揺れと津波は人と土地、さらに原子力発電所をも襲っていた。

実は翌日から韓国に出張する予定だった。宿のキャンセルは済ませたものの、それ以外は何も手が付かない。翌月からの国内研究員(研究休暇)の準備をしようにも、予定した研究テーマがにわかには色あせて見え、立ち往生してしまった。もともと、そんな程度の研究計画だったのかもしれない。誰にもかかわる根源的な研究をしたい。そんな気持ちが強まり、出て来たテーマが「名前」だった。

新聞の題字下に、犠牲者の人数が毎日載るようになった。1995年の阪神淡路大震災では、犠牲になった人たちの名前が掲載されたのに、

名前と「わたし」

今回はその気配がない。亡くなった人のことが数字でしか語られない日が続いた（全容が載ったのは1年後。たとえば毎日新聞「亡くなられた方々」<http://www.mainichi.co.jp/pdf/20120311.pdf>）。一人ひとり、名前があるにもかかわらず、数字でしか語られない。巨大な数字を前に、名前から「人」を考えてみたくなった。

名前について話を聞きたい、という気持ちは、研究法をインタビュー調査へと導かせた。近くに住む大学時代の友人で始めたインタビューはけっきょく半年で54名に達した（日本、韓国、台湾）。

インタビューでは、主に名前の後半（姓名の「名」）について名前経験を語ってもらった。

インタビュー記録は、その後『名前のこと話しましょう』という冊子（図1。A5判、256ページ、2012年4月刊）にまとめ、協力してくれた人たちに届けた。

その本の「はしがき」に、こう書いた（以下は、その抜粋）。

名前の研究を思い立った直接のきっかけは、昨年の「3.11」です。（略）そうこうしているうちに湧き出たテーマが「名前」だったので。しかし、この「思いつき」が単なる偶然ではないことにほどなく気づかされました。1つは「名前」が、30年近く続けてきたインターネット研究のゴールでもあったことです。ネット上のコミュニケーションでは、匿名も含め、名前は重要な役割を果たしています。また、メールアドレスには自分で付ける自分の名前という側面があります。それらは、いずれも自分の名前について考える格好の機会となっているはずで。

2つめは、最近、研究を始めた誕生日との関連です。生まれた時期が名前に反映される例

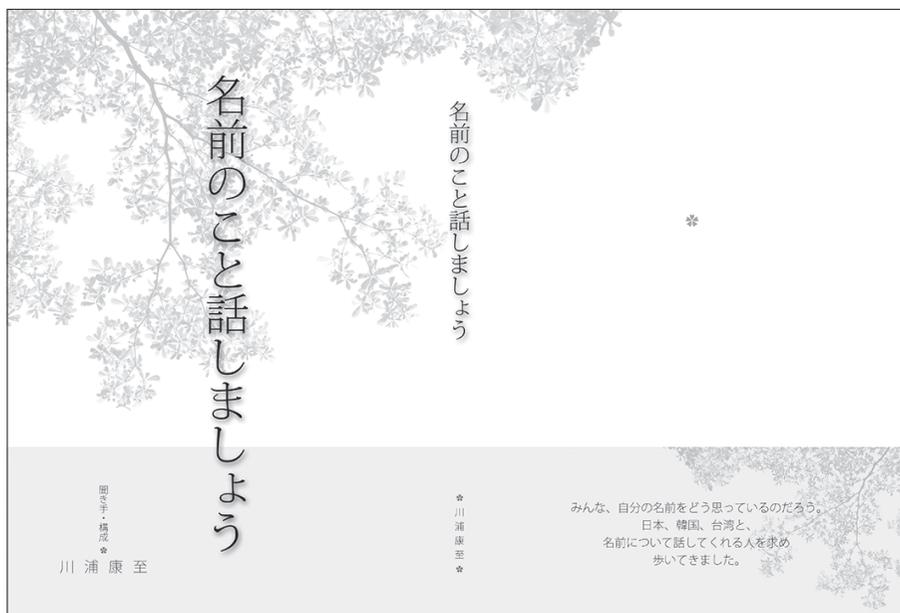


図1 『名前のこと話しましょう』カバー

は少なくありません。5月に生まれたから「さつき」と命名するのは、その典型です。私たちには自分の誕生日に含まれる数字を好む傾向があること、いわゆる「バースデーナンバー効果」が知られています。この現象は名前の文字についても当てはまり、それは「ネームレーター効果」と呼ばれます。誕生日も名前も「自分の持ち物」だから、というのがその主な理由の一つです。

新聞には、毎日、題字の下に「大震災被災者数」が載っています。それによれば、1年経った現在「死者1万5854人、行方不明3143人」となっています。合わせると2万人という気の遠くなるような数字です。この莫大な数字は日常の想像をはるかに超えます。しかし、その人たちの名前を一人一人知ることができれば、その想像も少しは等身大に近づくのではないのでしょうか。もし、その中に同じ名前の人がいれば、それはいっそう身近に迫ってくるはずです。名前にはそうした力があるのではないのでしょうか。

本書の完成後、関連文献をあたる過程で、研究室の書棚で『人生読本 名まえ』（河出書房新社）を見つけた。1982年刊とある。当時、ニックネームの研究をしていて、買った本だった。すっかり忘れていたが、これも「思いつき」3つめの原点かもしれない。

インタビュー後

『名前のこと話しましょう』には、「インタビューを終えて」と題するあとがきを書いた。以下は、その一部である。

名前インタビューに着手したのが2011年9月。その時点では、54人という大人数に聞くことになろうとは思いませんでした。インタビュー、そして記録の確認に貴重な時間を割いていただいたみなさんにあらためて感謝している。対象者を紹介してくれた友人や家族にも感謝したい。

まとめも一通り終わって安心したところで、同時にこのままでいいのかなという気持ちもわいてきた。人様に聞いておきながら、自分のことはまったく話さないままでいいのだろうか。しばらく、わたしの名前事情にお付き合い願いたい。

さて「康至」。わたしは4人きょうだいの3番め。

自分の名前に関心が出てきた頃、既に父は他界していた。母に命名の経緯をたずねると、「お父さんの会社に姓名判断家の人がいて、その人に付けてもらった」。わかったのはそこまでで、どういう経緯で同僚に付けてもらったのか、名前にはどんな意味が込められていたのかもわからない。その後も折りをみて確かめたのだが、返ってくることは「わからないねえ」。あきらめるしかない。それ以来、自分なりに「健『康』に『至』ってほしい」と解釈するようにしている。つまり、丈夫で育ててほしいという願いが込められた名前であると。

次に読み方。これまでの人生で、「やすゆき」と読んでもらった試しがない。国語の先生でさえ「やすし」か「こうじ」。だが、読み方を説明するのは苦痛ではなかった。読めなくて当たり前と思っていたからだ。小学校時代、「安い雪」と言われたこともあったが、別に

名前と「わたし」

からかわれているふうでもなく、むしろ雪の白いイメージが気に入ってさえいた。名前に関して語れるのはこれくらいだろうか。「健康で」という万人共通の願いを含み、ふつうの漢字2字で構成され、音自体もよく耳にする。しいて難をあげれば、読みにくいことくらいだろうか。この少しひっかかるぐらいがちょうどいいのかなとも思ったりする。どんな名前であれ、与えられた以上、その名前を生きるしかない。わたしにとって名前は重くもないし軽くもない。もちろん不満もない。

同姓同名検索サイトによれば、電話帳に掲載されている範囲では全国に171人の「康至」がいる (<http://namaeranking.com/>)。グーグルで調べた結果では、読みは「やすし」が大半で、「こうじ」がそれに続く。意外なことに「やすゆき」も10名いた。しかし、同姓同名に絞ると、私しかヒットしない。名前はいまやネット上の情報を関連づける重要なキーとなっている。今回のインタビューでも、このあたりのことが気になって、たずねた。多くの人が口にしたのは1つしかない名前への願望である。

インタビューの合間、名前に関連するビデオを見た。韓国通でもある同僚の青木さんに教えてもらった「大統領の理髪師」と「わたしの名前はキム・サムスン」だ。「大統領の理髪師」には、私のインタビューでもしばしば出て来た「作名所」(チャンミョンソ)が登場する。舞台は、朴正熙大統領率いる1960年代のソウルである。

作名所の占い師が候補として挙げた息子の名前は廣浩(グァンホ)と、樂安(ナガン)。

名前の書かれた紙を受け取るシーンで、主人公の父親(理髪師)は、その紙を上下逆さまのまま見ている。この時代、既に漢字を知らない人が多いことを思わせるシーンだ。

占い師「廣浩(グァンホ)は権力を得る名前だが、寿命はわからん。樂安(ナガン)は財物とは縁がないが、心配事なく平穩に暮らせる。2つともいい名前だ。1つ選べ」。

父親「平穩に暮らせて金持ちになる名前は？」

占い師「ない！」

家に戻って近所の人に紙を見せると、一人は「俺なら樂安にするね。長生きが一番だ」。別の一人は「男なら短命でも権力を握らんと」。また別の人は「何かが出たのか(ナガンニ)? 変な名前だ!」。

今度は妻の前に行き、結論を話す。

父親「名前を決めた！」

母親「何？」

父親「ナガン」

母親「ナガン? ナガンだなんて野暮ったい」

はたしてナガンの前半の人生は必ずしも名前通りではなかった。

「私の名前はキム・サムスン」(2005年夏放送)。こちらは韓国国内で改名ブームを巻き起こしたテレビドラマとして知られている。第1話で、自分の名前を気に入らない彼女が周囲に「ヒジン」と呼んで、と頼む場面が登場する。サムスンという名前は、ダサイ印象、男性っぽい印象を与えるらしい。他方、ヒジンには輝いているイメージがある。彼女は幾度となく、改名を試みるが、そのたびに恋人に阻まれる。しかし、最後は恋人からすてき

な名前だと言われ、サムスのままで生きることを決意する。ハッピーエンドにもかかわらず、改名申請が増加。ふだんは月5,000件前後だった申請件数が番組終了後の8月には7,700件近くに達したという。

『ヤバイ経済学』も見た。名前を取り上げた場面では、登場人物それぞれの頭頂部にバルーンのように名札がついていた。この場面を見てから、通りを歩いている、向こうからやってくる人の上に名札がついている光景を想像するようになった。しかし、よく考えれば、IDカードを首から下げた人が増えているから、あり得ない光景でもない。

名前は個人に与えられる。その意味で、名前

はその人の持ち物、「私の名前」だ。しかし、付けられた時点から、名前は「みんなの名前」とならざるをえない。正しく書かれ、読まれ、呼ばれ、そして一定の意味が了解されて、名前は名前として機能する。名前が私だけのものであれば、人がどう思おうと構わないはずだ。しかし実際には、そうはならない。ダサイ名前という反応はその証拠だ。命名は一見、名付け側が決める個人的行為だが、名付け側の背後には社会が存在し、産物である名前はすぐれた社会的存在である。その当たり前のことが、名付けられる側に注目したことで浮き彫りになったのではないだろうか。年齢とともに、自身の名前に対する感情が受容的ないし肯定的なものへと変化していくようすも、名前の社会性と無関係ではない。

さて私の名前の由来については後日談がある。名前インタビューはその後も続け（宮城県で被災した2名を含む、計5名に行った）、2014年秋に『名前のこと話しましょう2』を作った（図2。A5判、37ページ）。以下は、そのあとがき（一部修正）である。

ある日、家の近くにある大戸屋で夕食をとった。ふと見上げると壁にポスターが貼ってある。見ると、その中に「康」という字がある。「『健康』／健はからだで康はこころ／そうなんだよなあ」。

それまで、「康」は「健康」の「康」ぐらいにしか思っていなかった。自分の名前についても、健康に育ってほしいという願いが託されたのだろう、と。

ところが「康」は、健康は健康でも「心理的

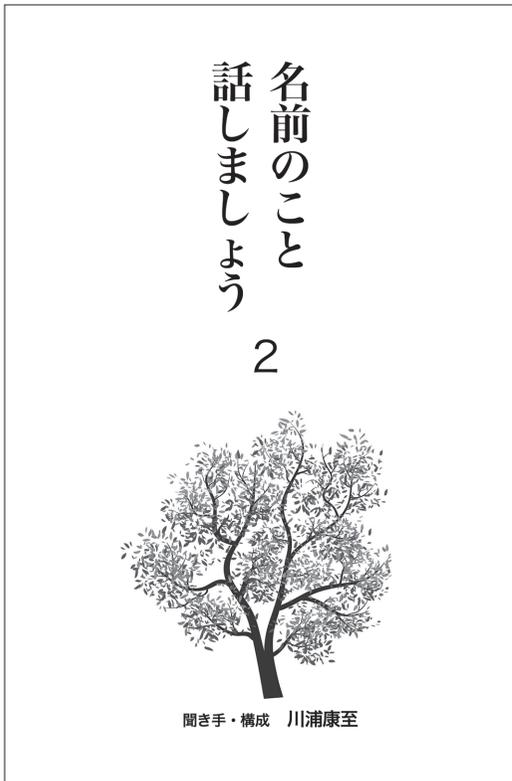


図2 『名前のこと話しましょう2』表紙

名前と「わたし」

な」健康をさすらしい。ネットで調べると詳しい語源がわかった。

「健康の語源は、中国の古典『易経（えききょう）』の中に出てくる『健體康心（けんたいこうしん）』という言葉だといわれています。体（體）が健（すこ）やかで心が康（やす）らかであること、つまり心と体のどちらも良い状態であることが、健康の本来の姿だといえます」（http://www.kao.co.jp/rd/healthcare/activity/healthcare30_01.html）。

「健康」の語源は「健體康心」である、と知り、一気に、いまの仕事に思いが飛んだ。そうか、私が心理学の道を歩むようになったのは、名前のせいかもしれない。名前と今がつながるのはうれしい。

名前の心理的効果

本人の名前が社会行動に影響を与えることは、ネームレター効果はじめ、これまでいくつも知られている。

いくつか紹介しよう。イギリスでの研究によれば、診察予約の確認メールに患者のファーストネームを入れたところ、「すっぱかし」が57%減ったという。名前の明示が、相手の注意を喚起したからである（『影響力の武器 戦略編』マーティン、ゴールドスタイン、チャルディーニ著、安藤監訳、2016年）。この結果を支えるのは「カクテルパーティ効果」である。つまり、パーティ会場のような騒がしい場面であっても、自分の名前だけは耳に届きやすい。カクテルパーティ効果は、名前を含め、本人にかかわりのあることがらに注意が向きやすい現象をさす。『名前のこと話しましょう2』のあとがきでふ

れた、ポスターへの注目も、この効果のおかげである。

名前の心理的効果は、これ以外にも指摘されている。

「独創的で、言いにくい名前が誘導して、好ましくない注目を浴びたり、好ましくない結果が生じたりする可能性がある」「人は名前を聞いただけでその持ち主の年齢や民族、裕福か貧しいかについての先入観を持つ」からである（『心理学が教える人生のヒント』オルター著、林田訳、2013年）。

名前の流暢さや社会的埋め込み（Social embeddedness）に加え、名前の響きも、対人関係や印象形成に影響を及ぼす（『顔を読む』ゼプロウィッツ著、羽田・中尾訳、1999年）。

「あたたかい響きをもつ名前は、童顔と同様にあたたかさや正直さの印象を強め、冷たい響きをもつ名前は、おとな顔と同様に権力と指導力の印象を強める」。これによる影響は、採用面接の判断でも見られるという。

ネームレター効果について、職業や居住地、結婚相手の選択にまで及ぶとの研究もある（『Qのしっぽはどちら向き』ワイズマン著、殿村訳、2008年）。ネームレター効果を支える要因として、単純接触効果（自分の名前は接触頻度が高く、結果として、名前に含まれる文字群への好意度も上昇する）が考えられる。

名前という経験

自分の「名前」を、「言う」「説明する」「書く」「読む」「見る」「呼ばれる」「変える／変えさせられる」（例：婚姻や離婚にともなう改姓、政策による強制改名）。

これらの行為は、われわれに自分の名前を経験させる。他人の名前も同様である。人の名前を、聞き、見、書き、呼ぶ。名前を変える場面に会う。他人の名前にかかわる行為も自分の名前の経験につながる。

これらの一次経験に加え、名前から派生する経験、つまり二次経験もある。名前による、からかひやいじめといった(被)排斥経験や、名前の字を説明する際に伴う感情経験(例:健康の「康」と説明するか、家康の「康」と説明するか)、同姓同名の人にいただく感情は、その例である。

名前の研究では、したがって、その名前をもつ本人、言い換えれば、名付けられた側の名前経験が重要になる。「名前負け」「名は体を表す」といった言い回しは、その一例である。

自分の名前に対する思いはさまざまだ。仏文学者の山田稔は、多くの人には自分の名前に不満をいただいているのではないかとし、その背景を考察する(『ヴォワ・アナル』1973年)。

ところで名前というものは自分で選んだのではなく親から一方的におしつけられたものであるから、たいいていの人々が不満をいただいているにちがいないのである。親がその時代にふさわしい、あるいは気のきいた名前をつけようと知恵をしなければしぼるほど、その名前は時とともに古び、子供が大きくなったときの時代の感覚となるわけだ。むしろ平凡な名前、あるいは無意味な、記号に近いような名前の方が子供つまりその当人にいやな思いを後にいだかせることがすくないのだろう。

日本の場合、多くの人は一生涯を通じて名前は

変わらない。他方、名前をめぐる文脈は、山田も言うように、社会や時代で変わり、それによって名前の含意も変わりうる。したがって、その変化による影響が深刻と判断されれば、改名は認められる。田中角栄と命名された子は、同氏の逮捕後、両親が改名を申し立て、兵庫県家裁支部で認められた(1983年)。

名前の心理学

インタビューも進み、名前研究の構想を練り始めたとき、知人から講演依頼が届いた。韓国相談心理治療学会の月例研究会で、名前のことを話してほしい、という内容である。当日は(2011年10月15日)、名前研究に至った経緯や問題関心、研究方向、韓国文化における名前について報告を行なった。講演の合間に、50名ほどの出席者に「自分の名前を気に入っているか」たずねた。その結果、2名から「気に入っていない」との回答があった。「ありふれているから」が、その理由だった。韓国は名字が限られていることも回答には関係していよう。

以下は、講演で用いた配布資料である。

「名前の心理学」

A psychology of personal names

1. いま、なぜ名前を問うのか?(わたしが名前に関心をもった経緯)

Why investigate personal names now? Why did I become interested in personal names?

1-1 わたしは30年前からコンピュータコミュニケーションを研究して来ているが、そこで感じたことは、情報社会がいかに自己開示に満ちた社会であるか、自己呈示に満ちた社会であるか、だった。

I have studied computer-mediated commu-

名前と「わたし」

nication for over three decades. Among other things, that study has taught me that an information society is a self-disclosure and self-presentation based society.

1-2 情報社会の進展は個人情報に満ちた社会をもたらしている。インターネットの普及で個人情報を探しやすくなった。その際、重要な手がかりが名前である。

The growth of an information society produces a society filled with private and personal data. The Internet makes the gathering and publishing of personal information easy, and names are clues to identifying a person.

1-3 インターネット上にも匿名で発言する人が一定数いる。

Often, online articles are posted anonymously, too.

1-4 メールアドレスやオンラインネームなど、自分で自分の名前をつける機会が増えた。

More and more people have chances to give themselves their own names (e. g., e-mail addresses and online nicknames).

2. 情報社会は、名前を意識する機会を増す。

An information society expands opportunities for us to be aware about names.

3. インターネット空間における名前

Names on the Internet

3-1 自身による名前の公開

例：電子掲示板で発言する／ブログを開設する。

Positive exposure of your own name (e. g., when you post online or create a blog).

3-2 他者による名前の公開

例：誰かが掲示板やブログであなたのことにふれるとき。

Passive exposure of your name via other internet users. E. g., when someone refers to you on the Internet.

3-3 人物検索の容易化

Search engines facilitate the retrieval of individuals' information

4. 名前の社会的特性

Social traits of names

4-1 匿名／偽名 — 実名

An anonymous or false name — A real name

4-2 一般的な名前 — ユニークな名前

An ordinary name — An unique name

5. 個人の同定と名前

Functions of a name in the identification of a person

5-1 ありふれた名前の場合、それが実名か否か判断することは難しい。

An ordinary name makes it difficult to determine whether the name belongs to a particular person or not.

5-2 同姓同名の人がいる場合、その中から当該人物を特定することは難しい（ユニークな名前の人物は特定しやすい）。

When there are many people with identical names, it is difficult to identify any one person from among them. Conversely, unique names allow for easy identification.

5-3 ユニークな名前がいいのか、ありふれた名前がいいのか。個人的アイデンティティの追求か、社会的安全の追求のどちらかを優先するか。

Is it better to have a common name or a unique name? This can be a question of what is more of a priority; individual uniqueness or social security?

6. 名前に含まれるもの

Social components of a name

6-1 社会性（相対的側面）

Social aspects (relativeness)

a. 国籍

Nationality E. g., Ichiro = Japanese

b. 性別

Gender E. g., Mariko = Female

c. 出生時期（時代、季節、月）

Period of birth (Era, season and month). E. g., Satsuki (= May in Japanese) = Born in May.

d. 出生順位
 Sibling birth order. E. g., Ichiro (Ichi means first, ro means boy) = Firstborn son

6-2 個人性 (絶対的側面)

Personal aspects (absoluteness)

a. (名付け) 親の期待・理想

Parental expectation (e. g., Akira = A bright and happy person

b. (名付け) 親の価値観

Parental values. E. g., Kazuo. Kazuo is a common name. The name may reflect the parental view that a name is a deterministic sign.

7. 命名における価値の変化

Change in the value of names

7-1 個人性の台頭 (社会性の後退)

その背景として子供の私物化が考えられる。

Dominance of personal aspects in names (i. e., the disappearance of social aspects in names). One reason behind this may be the personalization of children.

7-2 名前における社会的手がかりの消滅

かつては名前で国籍や性別など社会属性の推定が容易だった。

Disappearance of social cues in names. Previous, it was easy to assume the social attributes of a person from his/her name.

8. 個人的アイデンティティとしての名前

Name as personal identity

8-1 「私」の定義。

例：「私は誰?」「私はXX (名前) です」。

同姓同名者への心理的反応 (親近感)

The definition of me. "Who am I?" "I am XX (my name)". Psychological responses towards individuals with the same name (familiarity).

8-2 名前には意味があるという感情

例：「彼は名前負けしている」。

The feeling that names encompass some form of meaning. E. g., "He doesn't live up to his name".

8-3 名前は自分 (持ち主) の印象を左右する。改名願望。

Names affect the holder's view of self. Desire for changing one's name.

9. 名前の社会的次元

Social dimensions of names

9-1 継承・伝統 (過去から未来へのリレー)

例：親の名前の一部をもらう。

Inheritance and tradition (Relay from the past to the future). E. g., part of parents' names being included in a child's name.

9-2 創造 (独自性・新奇性)

例：作品としての名前。

Creation (originality or uniqueness). E. g., a name as a social product

9-3 関係性 (家族内での位置)

例：長子に一郎という名前をつける。

Relativity (position in the family). E. g., Ichiro means the firstborn boy.

10. 韓国における命名文化への関心

My interest in Korean name culture

10-1 名付けの基本ルール (例：姓名判断)

Fundamental rules in naming (e. g., telling someone's fortune on the basis of his/her name).

10-2 同姓者の多い環境における名前意識 同姓同名を避けるように名前を付けるのか、それとも同姓同名の人がいてもかまわないと思って名前を決めるか。

Attitudes towards naming in environments with a high concentration of shared names. When deciding on names, do people avoid sharing names, or are they not concerned with sharing names?

10-3 なぜ韓国では改名する人が多いのか。

例：TVドラマ「私の名前はキムサムスンです」。

Why do many Koreans change their names? E. g., My Lovely Samsun

10-4 文字表記の変化による名前意識の変化 表意文字 (漢字) から表音文字 (ハングル) への移行。

名前と「わたし」

Attitudes towards names pre- and post-alphabetization of the Korean language. Transition from ideographic culture (Kanji) to phonogramic culture (Hangul).

11. 進行中のインタビュー調査：名付けられる側に焦点をあてる

In-progress interviews, with a focus on the naming process

11-1 基本項目

Base questions

a. あなたの名前

What is your name?

b. 名前の由来と意味

What is the origin and the meaning of your name?

c. 名付け過程

How was your name decided upon?

d. 名前に対する印象／名前のどこが好きか、嫌いか

What do you think about your own name? What is it that you like and dislike about your name?

e. あなたの家族の名前

What are your family members' names?

f. 名前に関する経験や思い出

Experiences or memories regarding your name

g. 名字と名前のどちらが重要か

Which is more important: one's first name or last name?

h. 同姓同名者への反応

What is your response to a person with an identical name?

i. あなたにとって名前とは（名前観）

What does a name mean to you? (Your view of names)

11-2 付加項目

Additional questions

a. メールアドレスの作成過程

The process of choosing an email address

b. ニックネーム

Nicknames

c. 子供の名前

Naming children

今後は、この構想もふまえつつ、名前の社会的機能、すなわち対自および関係機能を追究したい。

【付記】 本稿は、2011年度国内研究費による成果の一部である。研究機会を与えてくれた東京経済大学に感謝したい。